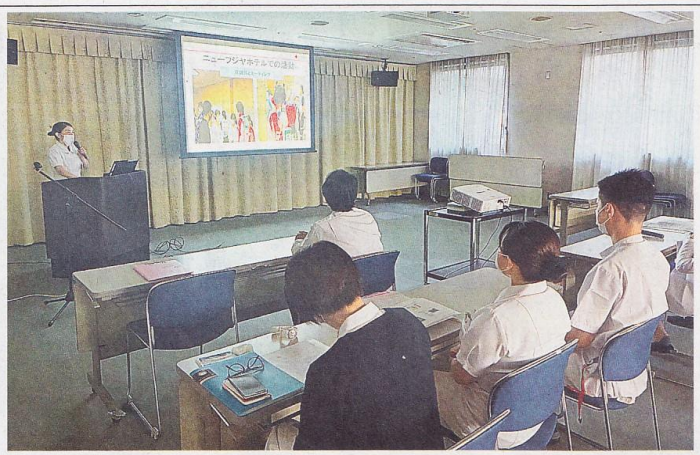
令和3年10月29日　静岡新聞朝刊掲載

新聞　（第三種郵便物認可）

避難者の心に寄り添う

静岡赤十字病院派遣チーム

土石流が発生した熱海市伊豆山で避難者の心の支援に当たった静岡赤十字病院の派遣チームが28日、報告会を静岡市葵区の同病院で開いた。活動した看護師らは職員約70人を前に、支援者が連携を密にして支援を継続する必要性などについて語った。



避難者の心のケア活動を振り返る高橋看護師長
＝静岡市葵区の静岡赤十字病院

熱海・土石流　支援活動語る

同病院の看護師や助産師、事務職ら3人一組の2班が7月、それぞれ3日間の日程で現地入りした。発生から4日後に派遣された班は、保健師や静岡DPAT（県災害派遣精神医療チーム）と連携し、避難先のホテルの個室を回って健康相談などに応じた。高橋涼子看護師長は「『つらいのは当たり前だよ』と伝え、泣きたい気持ちを受け止めて傾聴した」と振り返った。

7月22日から活動した梅原佳代子看護師長は、心身に傷を負った避難者が盛り上がる東京五輪とのギャップで「心理的な影響をより受けていると感じた」と語った。ホテルの個室生活で孤独感に悩む避難者が多かったことから「個室訪問による支援は、抱える問題を見つける場になった」と話した。

（社会部・佐野由香利）